



文部科学省 IB教育推進コンソーシアム

STUDENT TESTIMONIAL



まゆさん（東京都立国際高等学校2018年卒）

2018年度 東京都立国際高等学校卒 (IBDP1期生)。英国の大学にて国際開発学と経済学の
学士号を取得。現在、社会人2年目 (Digital Marketing・企画担当)

「IBは自分の興味をリミットレスに広げてくれて、挑戦を後押ししてくれる。」

IBコース1期生として入学。自ら飛び込んで、意欲的に始めるバイタリティがここが原点

私は小学校の時にはアメリカ、中学校の時にはロシアに住んでいたため、英語と簡単なコミュニケーションが取れる程度のロシア語を話していました。小さい頃はクラシックバレエをしていましたが、中学校からは卓球にのめりこんで頑張るようになりました。帰国して言語を忘れるという危機感を子どもながらに感じていたので、高校は国際系か英語を主体的に学べる学校に行きたいと思っていた折、祖父が私に都立国際高校の情報を見つけてくれました。それを読んだ時に、私と同じようなバックグラウンドを持った人たちが集まるような環境に興味を持ったこと、IBカリキュラムのことを知り、そこで学びたいと思いました。入学の後、IBDPで選択した科目は、HLでは経済、生物、数学、SLは日本語（文学）、英語（文学と言語）、歴史でした。IBでは1期生だったので、みな手探りの状態でいろいろやりながら、失敗したり成功したりと苦労しました。自分から飛び込んでいこう、始めようというバイタリティは、この苦労のおかげで得られたのかなと思います。高校時代ある先生から、「無駄かどうかはやってみないとわからない。」と言われたことも原動力となりました。

IBは何事にもチャレンジすることを後押しする環境が整っている、自由度の高いコースだと思います。そのころの私は人見知りな性格だったのですが、CAS活動の為にガーナとセネガルにボランティア活動に行ったことが自分のコンフォートゾーンから抜け出すターニングポイ

ントだったと思います。それは興味を持って行動すれば、できるという初めての体験でした。その時の経験から途上国の現状に興味をもち、その後の大学の専攻にも繋がっています。

国際開発学にも応用した多角的な視点で考えるライフロングスキル

高校卒業後は、イギリスの大学で経済学と国際開発学（途上国の開発研究）を専攻しました。経済学はIBの授業を受けている時から興味がありました。国際開発学は、日本の大学では学部レベルで専門的に学ぶことができなかったため、歴史的に途上国とリンクが深く学問の発祥の地であるイギリスで、学んでみたいと思い進学を決意しました。途上国で実際に研究活動や開発プロジェクトに従事している教授が、現地の活きた情報を教えてくださることに惹かれました。

IBで得たものは勉強方法などの技術的な面だけではなく考え方も学びました。情報を鵜呑みにするのではなく、この知識はどの立場から考えたら真実なのかということを学んで、多角的な視点で考えることができることを習慣化する—これが自分のライフロングスキルとなりました。国際開発学でも世界の問題を政治・社会・環境など様々な観点から考えることが必要とされ、IBで培ったクリティカル・シンキングや多種多様な背景の仲間と過ごした経験は「様々な人の立場からリアルに考える」という自分の強みになったと思っています。IBをしていなかったら、大学の課題量をこなしながら課外活動を両立するのは負

担だったかもしれませんが。特に課題の読書量は高校時代のIBの授業よりさらに多かったので苦労しましたが、なんとか乗り切ることができました。ロンドンから外れた田舎の方だったのでイギリス人の友達が多くノートをシェアしたり、テストに関係なくても24時間開いている図書館で遅くまでディスカッションに発展したりできたことも楽しかったです。とは言え、2年生の途中からは世界中でコロナが蔓延し、大学でも対面授業がなくなったので1人で黙々と勉強していました。

自分のパッションや直感を信じて動き、挑戦し続ける

今までの選択をしてきた状況を考えると、自分にはパッションや直感などの赴くままにやってみようという傾向があると思っています。

IB1期生になることや単身でアフリカに行くなど、チャレンジすることは怖くなかったのかと聞かれることがありますが、何が起るか予測不可能であったからこそ怖いという気持ちはありませんでした。反対にリスクが見えていたら不安・怖いという気持ちが勝っていてかもしれません。自分はあまり論理的に考えるほうではないので、好奇心とやってみたい気持ちが原動力となり、前例がないことでも思うままに猛進できてきたと思います。高校時代のIBを通じた様々なチャレンジが後の大学受験や就職活動でも活きたと感じていますし、今後も初心を忘れずにチャレンジをし続ける大人になりたいと思っています。

現在、私は社会人2年目で、新卒で入社した会社でデジタルマーケティングをしています。新入社員の配属先としては前例がなく比較的新しい部署で、施策の企画や分析を担当しています。企画した施策のプロジェクトマネージメント機能として、他チームに働きかけながら会社目標の達成に向けて奮闘しています。日々新しい施策を考え実装していく中で、新しい取り組みをすることに対して物おじしないのは、高校でIB1期生としてやってきたことが自信につながっているのだと思います。全く知らないアフリカの地に飛び込み現地の人と関係を築き、研究やインターン活動をした大学時代の経験や、1つの正解が存在せず日々トライ&エラーを繰り返し模索するデジタルの領域のお仕事も、「こうあるべき」という型がなかったIBでの学びと通ずるものがあります。

将来は何を自分の専門性としたいかというのを明確にして、その専門スキルのために目標を持ってキャリアを築いているような大人になれていればいいと思います。今は基本的に日本をメインにして働いているので、将来はグローバルに活躍したいです。また、オンラインベースでの仕事が多いですが、現場に赴いて現地の人とプロジェクトを進めるようなお仕事など様々な経験にチャレンジしたいです。

IB生へのメッセージ

私は家族以上に同じ時間を過ごし、切磋琢磨したIBコースの同級生達とのつながりは一生の財産であると考えています。卒業後も世界各国で、また様々なフィールドで頑張っている仲間たちから、刺激を与えられています。これからも互いに高めあっていけるような存在でいたいと思います。

IBカリキュラムで学ぶ前は、勉強について苦手意識があって、あまり楽しいとは思えなかったのですが、IBでその考え方がすごく変わりました。私は国際バカロレアというものを全く知らないで入学し、入学当初は「バカロレアコースは大変」という独り歩きした噂にとっても不安を感じていました。実際やってみると大変ではありましたが、反対に、常にまだこの先にさらに大変なのかもという気持ちで乗り越えていた気がします。

ただ机に座って暗記するのが勉強ではなく、自分の興味をリミットレスに広げてくれる、挑戦する事を後押ししてくれる環境がIBカリキュラムにはあると実感しています。詰め込みの勉強が好きでない人ほど、IBで学ぶことや考える事を好きになってほしいです！

